



# 6月えんだより

2017年 6月1日

社会福祉法人神戸YMCA福祉会

幼保連携型認定こども園

西宮つとがわYMCA保育園 園長：谷川 尚

〒663-8233 西宮市津門川町2-14

TEL (0798) 26-1016 FAX (0798) 26-1112

2017年度年間聖句：

「あなたがたは神に愛されている子どもです。」

(エフェソの信徒への手紙5章1節)

6月聖句：「これは主の御業 わたしたちの目には驚くべきこと。」

(詩編118編23節)

今年は春が来るのが遅かったせいか、5月は急に暑くなったように感じました。例年ですが、この時期、気候の変わり目に身体がついていけないせいか、急に発熱やしんどさを訴える子どもが多いです。でもしっかり夏に向けて身体を作る、発汗、体温調節、そして気候に慣れていくことをこの時期にしておかないと、夏に遊べない身体になり、熱中症等の危険もあり、保育園でも様子を見ながらもしっかり外遊びなど身体を暑さにならしていくようにしています。

5月にはグループごとでの保護者懇談会をさせていただきました。夕方の時間でしたが多くの方が参加していただき、ご家庭での様子、育ちへの不安、保育園でうれしかったことや気になっていたこと、たくさんの意見を伺うことができ感謝いたします。それぞれのご家庭が、ひとりひとりのお子さんを大切なものとして守り育てられていることを深く感じました。一方で集団での過ごしを心配いただいていることもあり、「何か悪いことをしていたら伝えてください」「ご迷惑おかけしたらいってください」という言葉もたくさん聞かせていただきました。その中で、迷惑をかけない子どもになることが大切、ということと保育園で大切にしているともに生きる力を育むということは、保育者のかかわり方が大きく異なってしまうように感じました。

実際は子どもの成長過程、またその時その時の環境によって、様々な感情が生まれ、時には葛藤が、時には感情の爆発があるのが子どもの育ちだと感じています。子どものいのちを守り育てることは保護するおうちの人や保育者の義務ではありますが、その子どもの育ちの方向性までをデザインできるものではないであろうとも思っています。でも近年、特に保護者と子どもの距離が近くなりすぎてしまい、子どもの人格まで保護者が決めて時には保護者と一体化しないといけないような風潮が強くなっているのではと危惧しています。

保育者、教師、保護者の子育ての大きな使命は、子どもが自分の人生に責任をもって生きる力をつけることだと感じています。子どもの育ちにかかわった大人が子どもの最後まで寄り添うことはおよそかなわないのですから。日本の保育の基盤を作った倉橋惣三氏は「自ら育つものを育てせよ」とする心、それが育ての心である。」といわれましたが、子どもにかかわる大人の姿勢はあるべき育ちを求めるのではなく、育っていく姿を驚き喜ぶ姿勢を持つことが大切であると感じます。YMCAの保育園では子どもは一人一人素晴らしい賜物を与えられた存在であるととらえています。だからこそ子どもが自ら育っていきこうとするときに見せる姿に驚きをもってかかわる、その姿自体が天からの贈り物であるという謙虚さの中で子どもに関わることが、子ども自らの育ちを支えるのだとも考えることができます。

こう育てないと、こうできるようにならないとあるべき姿を思い、そこから引き算で子どもの成長を見るのではなく、子どもの見せる成長の姿に驚きをもって見るような、子どもの成長を足し算で喜べる姿勢こそ、私たち子どもにかかわるものが持つべき姿勢であると身を引き締めて歩んでいきたいと思えます。

月主題	動きだす	
月のねがい	乳児（0.1.2歳児）	幼児（3.4.5歳児）
	<ul style="list-style-type: none"> <li>探索活動を楽しむ</li> <li>のびのびと体を動かして遊ぶ</li> <li>保育者にうけとめてもらいながら自分を出して過ごす</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>遊びやトラブルを通して、互いに相手の気持ちや考えを探ったり、自分の気持ちを伝えようとする</li> <li>自然の不思議さに目をとめ、関心を持つ</li> </ul>